

5. 小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）  
「人口ポテンシャル概念に基づく地方都市中心地の勢力変化―北海道を事例として―」
6. 松浦 司（中央大学経済学部）  
「希望子ども数の決定要因分析」
7. 鎌田健司（国立社会保障・人口問題研究所）  
「2005年以降における出生力変動の地域格差とその要因」
8. 石井憲雄（東北大学大学院）  
「近年の TFR 回復における都道府県間差異に関する研究」

（鈴木 透記）

## 2012年韓国人口学会定期学術大会

2012年韓国人口学会（会長：李承旭ソウル大学校教授）定期学術大会は、2012年9月7日（金）～8日（土）の二日間にわたり、釜山広域市 Bexco において開催された。この会場は、2013年10月の国際人口学会大会（XXVII IUSSP International Population Conference）の会場にも予定されている。日本・韓国・台湾・タイの4カ国協定により、各国人口学会会員は相手国の人口学会に加入せずに大会に参加できる。この協定により、日本人口学会から小島宏会員（早稲田大学）、聶海松会員（東京農工大学）および筆者が参加し、英語で報告を行った。

9月7日（金）は、大学院生セッション以外では「人口住宅総調査」「Marriage」「統計に現れた性差」「将来推計の方法論」「婚姻と出産」の各セッションが行われ、小島会員は「Marriage」部会で“Religion and the Timing of Family Formation in East Asia”と題する報告を行った。9月8日（土）は「歯科衛生学と人口学的諸要因」「老人の生活」「Elderly People in East Asia」「老人の口腔健康」の各セッションが行われ、「Elderly People in East Asia」部会で聶会員が“Demographic Transition and Challenges Facing an Aging Population in China”，筆者が“Elderly People Living Alone in Eastern Asia - Comparison of Japan, Korea and Taiwan”と題し報告した。またこの日は「婚姻移住現象に対する人口学的照明：アジアの脈絡から」と題する特別セッションが行われ、ベトナムのホーチミン国立大学の Hong Xoan Nguyen 講師が送出国、培材大学校の李惠景教授が受入国の立場から報告（英語）を行い、三人のパネリストが討論に立った。（鈴木 透記）

## 2012年度統計関連学会連合大会

2012年9月9日（日）～12日（水）、2012年度統計関連学会連合大会が開催された。2012年度統計関連学会連合大会は、統計関連学会連合の6学会（応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会）の共催であり、9日はチュートリアルセッションと市民講演会、10日からは北海道大学高等教育推進機構で本大会が開催された。

参加者総数は824名、発表件数は368件であり、内訳は大会特別セッション（5）、企画セッション（84）、一般セッション（248）、コンペセッション（27）、デモンストレーション（4）となっていた。

筆者は「人口統計」のセッションにおいて、「日本版死亡データベース（JMD）の開発と死亡分析への応用」について報告を行った。今回はこれ以外のセッションに参加できなかったが、このセッションでは、寿命のハザードモデルや Lee-Carter モデルの改良など死亡研究に関するものの他、同居児